

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/02/01

引き続き日米の金融政策が焦点

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日銀追加緩和で月足陽線に 予想レンジ: 119.000~ 124.500円	2-3
<u>カナダ/円</u>	➡	原油と円に注目 予想レンジ: 82.200~89.700円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



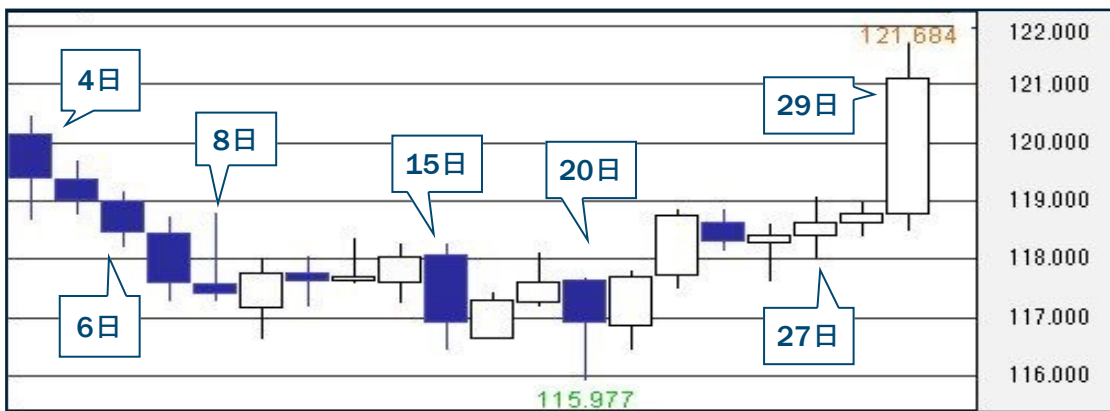
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 1月の推移

1月のドル/円相場は115.977~121.684円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.7%の上昇(ドル高・円安)となった。人民元の基準値切り下げや上海総合株価指数の値崩れなどから、中国経済失速への懸念が高まった事や、原油などの資源価格が下落した事から、リスク回避ムードが市場を席卷。年始から世界的に株価が軟調に推移する中、20日には約1年ぶりに115円台に差し込んだ。しかし、こうした世界情勢の下、21日には欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が3月理事会での追加緩和を示唆、そして日銀は29日に「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を発表した。これを受けてドル/円は121円台を回復して1月の取引を終えた。



四本値	
OPEN	120.167
HIGH	121.684
LOW	115.977
CLOSE	121.104

4日	中国人民元対ドル基準値が前営業日から元安水準に設定された事や、中国1月財新/製造業PMIが予想を下回った事を受けて上海総合株価指数が大幅に下落。日経平均も大発会としては過去2番目の下げ幅となる582円安を記録した。これを受けて119円割れまで円高が進んだ。
6日	米12月ADP全国雇用者数が25.7万人増と予想(19.8万人増)を上回った事を受けてドルが買われる場面もあったが、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で「何人かはインフレ見通しに大きなリスクがあると判断」していた事が明らかとなったほか、「原油安やドル高が物価目標達成へのリスク」と先行への不安を滲ませた事からドル売りに傾いた。
8日	米12月雇用統計は失業率が予想通りの5.0%、非農業部門雇用者数が前月比29.2万人増と予想(20.0万人増)を大きく上回った。また、平均時給は前月比横ばいと予想(+0.2%)を下回った。雇用者の大幅増を好感して一時ドル買いが強まり118円台後半まで上昇したものの、賃金の上昇が見られなかった事から伸び悩んだ。その後、堅調に始まったNYダウ平均がマイナス圏に沈み150ドル安以上値下がりすると117円台前半まで反落した。
15日	黒田日銀総裁が「現時点で追加緩和の考えはない」などと発言すると円買いが強まり、117円台半ばへ下落。また、米12月小売売上高は予想通りの前月比-0.1%であったものの、自動車を除いた売上高が-0.1%と予想(+0.2%)に反して減少。さらに、米12月鉱工業生産が前月比-0.4%と予想(-0.2%)を下回るとドル売りが強まり117円台を割り込んだ。その後、NYダウ平均が一時500ドル安まで下げ幅を拡大(終値は390ドル安)すると116円台半ばまで続落した。
20日	中国経済への不安や原油価格の続落を嫌気して日経平均が632円安となる中で円買いが活発化。断続的にストップロス巻き込みながら、約1年ぶりの安値となる115.977円まで下値を切り下げた。しかし、日本政府関係者による「為替市場の動向を注視する」という円高牽制的な発言が伝わると急速に値を戻した。
27日	米FOMCは政策金利であるFFレートの誘導目標を0.25-0.50%に据え置き、追加利上げは見送った。また、声明では「世界の経済と金融の動きを注視」「世界情勢が経済見通しへのリスクに与える影響も評価」などとした。これが海外情勢への配慮を示し、利上げを急がない姿勢と受け止められ118円台半ばに押し戻された。
29日	日銀金融政策決定会合の終了後に「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」が発表された。日銀当座預金にかかる一部の金利(付利)をマイナス0.1%に設定した事を受けて円売りが激化。なお、黒田日銀総裁は、定例会見で「今後必要な場合はマイナス金利を強化する」「金利全般に強い下押し圧力を今後も加えていく」などと述べて、物価目標達成のためにはさらなる追加緩和も辞さない構えを示した。欧米市場でも日銀の追加緩和を好感して株価が大幅に上昇したため121.684円まで上値を伸ばした。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	1.0477%
HIGH	1.0657%
LOW	0.7618%
CLOSE	0.7737%

米10年債利回

OPEN	2.2694%
HIGH	2.2908%
LOW	1.9088%
CLOSE	1.9209%

日経平均

OPEN	18818.58
HIGH	18951.12
LOW	16017.26
CLOSE	17518.30

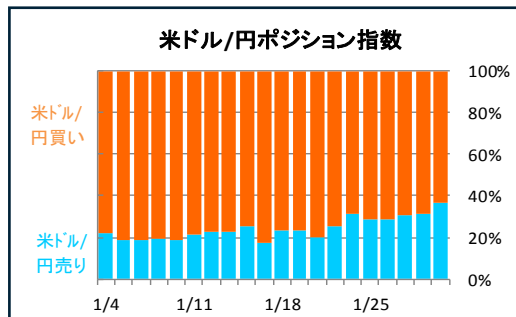
NYダウ平均

OPEN	17405.48
HIGH	17405.48
LOW	15450.56
CLOSE	16466.30

1月のポジション動向

2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)



- ・1月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・1月米ADP全国雇用者数(3日)
- ・1月米ISM非製造業景況指数(3日)
- ・12月米貿易収支(5日)
- ・1月米雇用統計(5日)
- ・12月日本国際収支(8日)
- ・1月米小売売上高(12日)
- ・10-12月期日本GDP・一次速報(15日)
- ・1月中国貿易収支(15日)
- ・1月米鉱工業生産(17日)
- ・1月米住宅着工件数(17日)
- ・米FOMC議事録(17日)
- ・1月米消費者物価指数(19日)
- ・1月米耐久財受注(25日)
- ・1月日本消費者物価指数(26日)
- ・10-12月期米GDP・改定値(26日)

2月の見通し

2月のドル/円は、日銀が導入した「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の効果と、米連邦準備制度理事会(FRB)の3月利上げの可能性を探る中で上下する事になりそうだ。

1月29日に日銀が発表したマイナス金利は、民間金融機関が日銀内の口座にプールする当座預金残高のごく一部にしか適用されないため、黒田バズーカ1や2に比べると円安や株高への影響力は限定的との見方もある。マイナス金利の導入を受けて、一時0.1%を下回り史上最低水準を記録した本邦長期金利(10年債利回り)の動きなども注目されよう。

一方、米FRBは1月27日の連邦公開市場委員会(FOMC)で、海外情勢に配慮して利上げを急がない姿勢を示したとの見方が一般的だ。このため、1月末時点における3月利上げ(0.25%引上げ)の織り込み度合いは、わずか14%に留まっており、米国債利回りは、1月初旬の水準から大きく低下している。こうした見方が覆らなければ、一段のドル高は望めそうにない。中国株や原油価格の動向に加え、米雇用統計や小売売上高など米重要経済指標の結果が注目される。

ドル/円の1月月足は、長い下ヒゲを伴った「下影陽線」となった事で、テクニカル面からは底入れが示唆されている。もっとも、200日移動平均を下回る水準にあるため、強気化は見送りたいところでもある。121円台半ばの200日移動平均線を早い段階でクリアできるか注目したい。(神田)

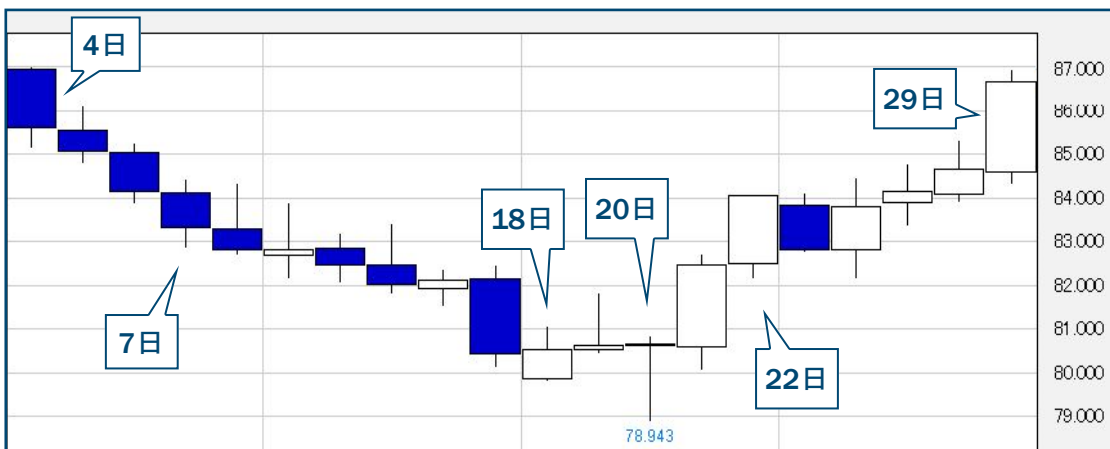
(予想レンジ: 119.000-124.500円)

カナダ/円 1月の推移

CAD/JPY

1月のカナダ/円相場は78.943～86.977円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.3%の小幅下落(カナダドル安・円高)となった。

中国経済の減速懸念を背景とするリスク回避の動きや、イランの輸出再開に伴う原油相場の続落などが重石となり、20日に2012年11月以来となる78.943円の安値を記録。ただ、その後は産油国の協調減産観測を受けてNY原油が34ドル台まで持ち直した事や、本邦のマイナス金利導入を受けて円売りが強まった事から、29日に87円手前まで反発して月初の水準をほぼ回復した。



四本値

OPEN	86.948
HIGH	86.977
LOW	78.943
CLOSE	86.667

4日	ドル/人民元相場が6.6125元まで下落して2011年9月以来の安値を付けた。その後発表された中国12月財新/製造業PMIが48.2と予想(48.9)を下回り、上海株が急落すると、アジア市場全体にリスクオフムードが拡大してカナダ/円は下落した。
7日	加中銀(BOC)のポロズ総裁が「BOCには下振れリスクを低減するために伝統的・非伝統的措置が残されている」と発言するも、追加金融緩和について踏み込んだ発言が見られなかった。市場関係者の間で追加金融緩和観測が高まっていたが、同氏の発言を受けてカナダドル買いが強まった。
18日	前週末にイランへの制裁が解除された事から、原油安・株安懸念が強まり、全般的円買いが優勢で始まり、カナダ/円は79.860円まで下落。ただ、その後は安寄りした日経平均が下げ幅を縮小した事や、中国人民元の基準値が前営業日終値よりも元高方向となった事などから反発した。
20日	欧州株安が重石となって円高が進むと、カナダ/円は78.943円まで下落。ただ、その後は「日本の政府関係者が『為替市場の動向を注視』しているとの見解を示した」と報じらると下げ幅を縮小した。その後、BOCは政策金利の据え置き(0.50%)を決定し、声明で石油など商品市況の値下がりや経済の足を引っ張るとした上で、昨年10-12月期の成長は失速したと予想とするも、「米国需要の拡大、カナダドル安、緩和的な金融・財政状況が後押しする形で、資源以外の活動への長期的な転換の流れが進んでいる」「インフレ率については全般的に予想通り推移しており、総合インフレは2017年初頭までに2%程度に伸びると予想」「インフレリスクは概ね均衡」などとした。
22日	NY原油の堅調推移を受け、カナダ/円は84.063円まで上昇した。なおカナダで発表された経済指標は、1月小売売上が前月比+1.7%、除自動車・前月比+1.1%と予想(+0.2%、+0.4%)を上回るも、12月消費者物価指数は前年比+1.6%、コア:前年比+1.9%と予想(+1.7%、+2.0%)を下回る伸びとなるなど、強弱入り混じる結果であったため、反応は限られた。
29日	日銀がマイナス金利導入を発表した事を受けて円安・株高の流れとなり、カナダ/円は86.939円まで上昇した。なお、加11月国内総生産(GDP)は事前予想通り前月比+0.3%であった。

加10年債利回り

OPEN	1.394%
HIGH	1.411%
LOW	1.095%
CLOSE	1.225%

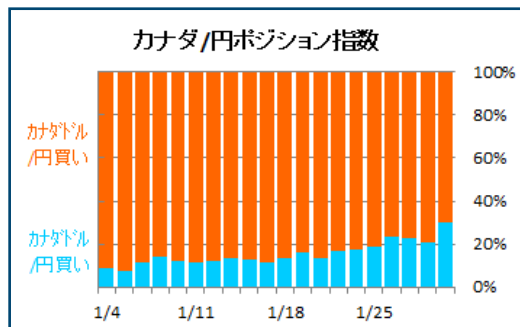
N Y 原油

OPEN	37.60
HIGH	38.39
LOW	26.19
CLOSE	33.62

NYダウ平均

OPEN	17405.48
HIGH	17405.48
LOW	15450.56
CLOSE	16466.30

1月のポジション動向



2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・1月中国財新/製造業PMI(1日)
- ・1月米雇用統計(5日)
- ・1月加雇用統計(5日)
- ・12月日本国際収支(8日)
- ・10-12月期日本GDP・1次速報値(15日)
- ・1月米小売売上高(12日)
- ・1月中国貿易収支(15日)
- ・1月米消費者物価指数(19日)
- ・1月加消費者物価指数(19日)
- ・12月加小売売上高(19日)
- ・10-12月期加經常収支(29日)
- ・原油相場、主要国株価

2月の見通し

2月のカナダ/円相場は、引き続き原油相場の動向が焦点となろう。カナダは原油が主力輸出品であり、原油価格の低迷はカナダ経済にとって悪材料である。仮に協調減産が実施されれば原油価格の上昇が見込めるため、カナダ経済に追い風となるが、イランは欧米による経済制裁の解除を受けて原油を増産する姿勢を示しており、その公算は小さいと見る。したがって、原油相場はカナダ/円相場の重石であり続ける公算が大きい。場合によってはBOCが非伝統的な金融政策(マイナス金利や量的緩和など)に踏み切るとの見方が強まる事も考えられる。

1月は円の事情もカナダドル相場を動かす引き金となっており、今月も引き続き注目される。日銀のマイナス金利を受けた円売りの流れが続けばカナダ/円相場を下支えする事が予想される反面、本邦1月貿易収支の黒字が予想以上に拡大するようだと、本邦の年度末決算に絡んで円買いが活発化して相場の重石となる事もあり得る。(川畑)

(予想レンジ: 82.200~89.700円)